

留学生センター／名古屋大学留学生相談室活動報告

松 浦 ま ち 子

はじめに

2008年度は、前半は2007年度から継続的に検討されてきた相談業務体制一元化が6月16日開催の役員懇談会で了承された。それに伴い、名古屋大学留学生相談室は運用定員1名が解除され、年俸制適用職員1名が措置され雇用申請をした。後半には、そのポストを含め4種類の教員募集と選考に関わって多数の応募書類に目を通すことになった。短期留学部門の特任助教、教育交流部門の海外留学室担当准教授、名古屋大学留学生相談室特任准教授、さらに国際交流協力推進本部の4名の特任講師である。これらを通じて感じたことは、政府の留学生受入れ30万人計画が留学生受け入れ環境整備に強い追い風となっていることであり、一方で、教員応募者に見る海外留学経験者の多さと学歴の高さであった。前者は2009年度早々グローバル30構想

調査として形を表し、後者はこれからの留学生業務担当教員の資質を表象しているようであった。すなわち、海外留学経験及び学位（修士又は博士）は当然の条件で競争条件ではなく、推薦書や志望動機・抱負から読み取る人間性やコミュニケーション能力、協調性、意欲など、人格的要因の業務への適性が大切な要件となっている。そのため、面接においては選考審査員の「人を見る目」が問われ、応募者は自己表現能力が問われることになる。

採用後の業務遂行に関しては、大学教員の場合、基本的に個人の判断に委ねられている部分が多いが、元来良い資質を持つ教員をさらに優れた教育者に育てるための教員FD研修が、今後とも重要な役割を期待されていることは言うまでもない。

I. 留学生相談業務と相談内容

平成20年度 留学生に係る相談内容と相談件数

相談内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
指導教員・進路	－	－	－	－	3	6	2	－	－	－	－	－	11
日本語・勉学	－	3	2	1	－	－	1	1	1	2	1	－	12
事務手続き	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2
入国・在留関係	－	1	1	－	1	3	2	－	－	－	－	－	8
宿舍	9	9	4	6	17	11	9	2	6	17	15	10	115
奨学金・授業料	4	－	1	－	1	－	1	－	－	－	1	2	10
医療・健康	－	2	1	2	－	5	4	6	－	1	－	9	30
生活・適応	1	10	1	5	9	4	2	3	3	4	4	10	56
就職・インターンシップ	16	30	20	20	10	12	11	16	11	9	10	9	174
家族	3	4	3	5	1	5	9	4	3	3	4	2	46
地域交流	5	6	6	1	6	16	9	15	6	7	4	2	83
人間関係	－	－	－	－	－	2	2	1	－	1	－	－	6
NUFSA・留学生会	16	13	12	5	9	9	20	14	15	4	2	18	137
その他	11	3	7	6	16	13	10	8	11	15	24	26	150
計	67	81	58	51	73	86	82	70	56	63	65	88	840

2008年度は表からわかるとおり、留学生の就職、宿舍、留学生会に関わる相談が多くあった。詳しくは後述するが、就職については、企業からの求人相談が多く、留学生会関係ではNUFSAや中国留学生学友会との関わりが多くあった。

【指導教員・進路】

時間的制約の中、学位取得の可能性に不安を持った学生が、先生との関係がうまくいかないと相談に来た。学位を目指して自分の研究に集中したいのに、先生からの指示は学部生の指導等自分の研究と関係のないことが多く、とても無駄な時間が過ぎ焦りを感じるとのこと。指導教員を変えることや休学を視野に入れての相談だった。本人の了解を得て先生にメールを送ると、すぐに電話があり、先生には先生の言い分があった。どちらもそれなりに理にかなうものであったが平行線で、留学生相談室としては、研究室を覗いているわけではないので、双方に相手の言い分を刺激しない程度に伝え理解の糸口を見つけてもらうしかなかった。しかしながら、この学生に関する問題の原因は、学位によって表面化したにすぎず、実は入学時にあったのではないかと考えている。話の中で、この学生は指導教員が信頼する他大学の教員から託された学生であったことがわかった。引き受けるからには、当然学生の研究能力を審査してのことであろうが、双方の期待値に食い違いがあったと感じた。

【日本語・勉学】

- ・留学生担当教員がいない部局（環境、教育、情報科学）を対象に、チューターガイダンスを実施し、新しいチューター制度の周知徹底とチューター学生の指導を行った。
- ・7月、12月には留学生センターと共同でチューター学生のための懇談会を開催し、チューター学生が相互意見交換しチューター活動の充実を図るとともに、現場の悩みやニーズ、現状を把握した。
- ・留学生経費（チューター謝金）の配分と用途の明確化に関して、ある部局とチューターマニュアル解釈の齟齬があり話し合うことで解決した。

【宿舍】

1. 名古屋大学国際交流会館

- ・国費留学生の出迎えに関して、出迎え先が名古屋駅

ではなく中部国際空港になったため、早朝に出迎えた留学生担当教員から意見があり、出迎えの必要性及び国際交流会館での入居時の受け入れ態勢について留学生教育交流実施委員会で話し合うこととなった。第2回留学生教育交流実施委員会（3／16開催）において、平成21年4月から新規渡日の国費留学生について、私費留学生同様、原則として出迎えを行わないことを承認した。具体的には、中部国際空港への出迎えについて、経費の節減、移動手段の充実、表示案内の普及などを理由に、留学生が空港から目的地まで支障なく到着することが可能となっているため大学としては出迎えを義務としないということである。これに伴って、国際交流会館での夜の受入れ対応の要望があり、国際交流会館は、夜10時まで対応することとなった。

- ・国際交流会館チューターの欠員を学内公募し、レジデンス女子2名、留学生会館男子2名を選出した。
- ・留学生会館へ地域ボランティアが持込みサイクル品の保管に関して、持ち主のない物品の長期保管が恒常化して困っているとの相談があった。留学生会館のあり方をご理解いただき、品物を4月と10月のバザーに提供することも含め改善をお願いした。
- ・新国際交流会館（仮称）建設に関わって、設計図への意見聴取があり、関係者の意見を取りまとめた。この寮は、国際唹鳴館に隣接して、単身用94室程度を第一期工事で建設予定である。意見としては、管理上のソフト面における対応への懸念が多くあった。

2. 社員寮

- ・2年ぶりにブルーハイツ重の井の入居希望があり、契約の仲介をした。現在は1室のみ使用させていただいており、ここ数年はタイ人留学生が先輩から後輩へという形で受け継がれている。
- ・NGK インターナショナルハウス、服部留学生会館はいずれも低廉な価格で提供していただいており、地理的にも大学に近いため、留学生にとって魅力的な宿舍でいつも高い競争率である。それに加え、前者はグローバル企業として留学生の出身国のバランスが推薦条件の一つとなっており、後者は主として博士後期課程学生の推薦希望がある。入居申請に当たっては、社員寮面接シートを提出させ面接選考・推薦しているが、時には希望者が多すぎて、面接が一日で終わらないこともある。日本語能力や宿舍・

生活状況など面接でわかることもあるが、出身国や学年という属性により振り分けられる場合もあるため、事前書類選考を導入することで全員に対して面接しなくても済むよう社員寮面接シートを改訂した。

3. 民間アパート等

- ・工学系研究室より短期間受け入れる留学生2名の宿舎相談があった。以前ホームステイをお願いしたことのある海外経験豊かなご家庭に1名引き受けてもらえないかとお願いしご快諾いただいた。受入れ教員がすぐに挨拶とお礼に向きお話しされた結果、2名ともホームステイさせてもらえることになった。留学生の母国語に明るくコミュニケーションに困らない家庭でありがたかった。留学生はよい日本家庭体験ができたと思う。
- ・10月渡日学生の宿舎探しの照会があり、ちょうど1室空室になっていたアパートを紹介した。そのアパートは、名古屋大学の留学生であることが条件だったため、照会のあった研究室に在留資格が「留学」であることを確認し、契約の手はずを整えた。そこに「ストップ」がかかった。学生身分が「訪問研修生」という部局独自の身分で正式な身分でないため、名古屋大学留学生後援会は機関保証ができないとのことであった。この学生は、全学向け日本語講座についても受講資格がないと判断され、結果的に家族の日本語コースを受講した。
- ・アパートに暮らす留学生のごみ分別に問題があるとのことで、現地に赴いてパワーポイントを使って分別収集の説明を実施した。結果、ひと月ぐらいはきちんとしていたと管理会社から報告があった。
- ・「機関保証制度」において休学中の学生の機関保証を行えるかどうか話題になった。学内におけるその他のサービスについても休学中の扱いを調べる必要がある。
- ・「機関保証制度」をめぐるっては、特に契約自動更新時の保険未継続(未加入)、退去時の原状回復費用、あるいは未解約のまま退去・帰国で家賃滞納等の問題が起きることが多く、部局が留学生の在籍管理を行っていることと国際学生交流課が機関保証事業を行っていることがうまく連携していない状態である。これに関して、留学生教育交流実施委員会で機関保証制度を再検討する予定である。

【奨学金・授業料】

- ・DCを受験したが不合格になった国費留学生が、帰国という選択肢はあり得ないとばかりに何とか博士課程に入学する方法はないかと相談にきた。結果として、新学期直前に他大学のDCに進学できることとなったが、次は国費の奨学金を延長できないかとの相談、気の毒であったが、この学生の場合は可能性がないことを説明し諦めてもらうしかなかった。

【医療・健康】

- ・2009年度から医療費補助制度が廃止されることになったため、隔年で改訂している留学生ハンドブックでもその部分を削除した。独立行政法人日本学生支援機構の文書にも「平成16年度より在留資格『留学』を有するものすべてが滞り期間に関わらず国民健康保険の加入が義務付けられたことにより、…外国人留学生医療補助制度は日本人学生との医療保険制度の格差を是正する役割を終えたと判断されるため、平成21年度において本制度を廃止し…」とある。医療費補助割合が減額されていたので、いずれはと予測された事態であった。これにより、事務負担は軽減すると思われる。留学生には3月末までに病院へ行くことを奨励した。
- ・頭に落下物があたった学生が心配して相談に来たので、病院で検査してもらうことを勧めたが学生の態度が煮え切らない。よくよく聞くと、日本で病院に行ったことがないので、病院へ行きたいが不安だという。夕方救急外来しかやっていないこともあり、八事日赤へ同行した。検査結果は異常なしで安心した。

【生活・適応】

- ・新入留学生オリエンテーションでは、4月に新しい試みとして言語別に午前(日本語)と午後(英語)に分けて行った。説明する側としては、日英両言語を交互に話す場合にありがちな伝え漏れを避けることができた。10月にもこのやり方を踏襲した。
- ・秋ごろから始まった世界的な金融危機における留学生への影響について、国際学生交流課から問い合わせがあったが、特に深刻な情報は得ておらずその旨回答した。

【就職・キャリア支援教育】

・外国人留学生インターンシップについては、愛知県が夏のインターンシップ事業、愛知労働局が翌年春のインターンシップ事業を開催した。最初の1週間はセミナーであり職場体験は約2週間、合計3週間

のスケジュールである。愛知労働局は「外国人留学生インターンシップ支援協議会」を設置、事業主団体、大学等、行政機関の15名程度で組織、2008年度は2回開催された。

・就職に関しては、秋からの金融危機に陥るまでは、昨

平成20年度 留学生向け求人・会社説明会実施状況

No.	企業 説明会実施★	来訪・電話 説明会実施日等	対象	参加人数 (名)	備考
1	A社 ★	4/2 来訪 6/2 会社説明会	ベトナム	4名	金型の設計、プログラム技師 計1～2名
2	B社	4/9, 5/14来訪			アルバイト紹介会社
3	C社 ★	5/9 来訪 5/21 会社説明会	マレーシア	2名 工：U4	生産管理1名、製造技術1名
4	D社 ★	4/16 来訪 6/25 会社説明会	北米、欧州	14名 12カ国	スウェーデン、イタリア、ウズベキスタン、アルゼンチン、インド、中国、韓国、フィリピン、ウクライナ、アゼルバイジャン、USA、ポーランド
5	E社	4/21 電話 5/7 来訪	タイ		タイ人留学生へ周知
6	F社 ★	4/24 電話・メール 5/27 会社説明会	韓国、台湾、中国、インド、タイ、ドイツ、アメリカ	15名 6カ国	韓国、台湾、中国、インド、ハンガリー、ルーマニア
7	G社	5/1 来訪			掲示
8	H社	4/30 メール			インターンシップ生募集 9/1～9/12
9	I社 ★	5/29 電話・メール 7/18 会社説明会	8/25 1名（中国）採用	12名 4カ国	
10	J社 ★	5/29 電話・メール 6/30 会社説明会	指定なし	22名 7カ国	中国、ベトナム、フィリピン、台湾、香港、モンゴル、インド
11	K社 ★	6/11 電話 6/16 来訪 7/14 会社説明会	中国、マレーシア、ベトナム	6名 3カ国	中国、マレーシア、ベトナム
12	L社	6/18 来訪	マレーシア	2名	マレーシア
13	M社 ★	7/1 来訪 7/25 会社説明会	ロシア、ブラジル、タイ、インド、中国	7名 4カ国	中国、台湾、ロシア、ブルガリア
14	N社 ★	7/14 来訪 10/24 会社説明会	インド	4名 内3名 名工大	工学系（機械、電気）
15	O社	7/15 メール			求人掲示
16	P社	7/22 電話 7/28 募集資料 (メール)	タイ		求人掲示（日本語・タイ語）
17	Q社	8/20 電話 9/17 面談	タイ、中国		タイ（工場10年）及び中国（進出予定、将来幹部候補生）
18	R社	8/26 電話 9/2 来訪	タイ留学生のUターン就職希望者		タイ
19	S社	9/4 来訪			タイ、中国に事務所あり、商社
20	T社	9/12 来訪	工場見学募集		ベトナムに工場
21	U社 ★	9/16 来訪 1/22 会社説明会	指定なし	16名	中国、インドネシア、モンゴル、韓国
22	V社 ★	11/5 来訪 12/4 会社説明会	指定なし	39名 8カ国	中国27、台湾3、ウズベキスタン2、ミャンマー、インドネシア、スリランカ、カナダ、アルゼンチン各1、不明2
23	W社	12/5 来訪	アメリカ、メキシコ、タイ		募集要項掲示

年度より多い感触で留学生の採用を希望する会社からの相談を受け、会社説明会開催の申し込みがあったが、その後は、ぱたっとなくなり、経済情勢の厳しさを感じるようになった。平成20年度は、表のとおり11社の会社説明会を開催し、143名が参加した。学内での会社説明会は、留学生と企業の「出会い」の場であり双方に便宜を図るものである。

- ・留学生相談室主催で二つのコースを実施し留学生のニーズに応えた。一つは「就職のための日本語スタディグループ」(前期・後期各8回)であり、もう一つは「外国人留学生のための就職活動支援コース」(後期12回)である。前者は、留学生センター日本語教育部門が平成21年度から全学向け日本語講座に「ビジネス日本語」を新規開講する運びとなり、留学生相談室は役目を終えた。後者は実践的且つ具体的なコースで、留学生にとって今後も重要であることから、そのコンテンツを冊子にまとめ「自信を持って就職活動を！」と題して年度末に刊行した。平成21年度も継続して開講を企画し、平成20年度第2回同窓会大学支援事業に申請し採択された。平成21年9月下旬から開講予定である。
- ・学生相談総合センター就職支援室主催の企業研究セミナーで「留学生相談コーナー」を担当して学内連携を強化するとともに、留学生の就職を支援した。
- ・留学生の「出口」としての日本企業への就職は、経済産業省、文部科学省が推奨しているところであり、留学生にとっても人生設計の重要な選択肢として増

加傾向にあるため、今後は、留学生キャリアサポート体制確立のための学内組織の整備、及び留学生の就職先データ作成が急務である。

【家族】

- ・地域の3団体の協力・支援を得て名古屋大学の留学生や外国人研究者の家族のための日本語・日本事情コースを継続的に運営している。留学生等の家族は日本語を学ぶことで日本生活の充実を図り、且つ同じ境遇にある他の留学生・研究者家族と友人関係を構築することができる。それにより、留学生等家族の異文化適応を助け精神的安定をもたらす一方で、留学生が家族のことにとらわれずに研究に専念できる環境を作り出している。すなわち家族と留学生等双方の精神的に安定した環境の確保に貢献している。平成20年度の受講生は、前期44名、後期32名で計76名であった。日本語教師(学外)やボランティアグループと年数回会議を開催し、クラス運営やコースの改善・充実に努めている。名古屋栄ライオンズクラブからの支援は1994年秋以来約15年間継続されており、その恩恵を受けた受講生は1,300名を超えた。受講中の託児サービスボランティアグループ「ひろば」に対しても、構築してきた信頼関係を大切にしながら継続的な支援を期待したい。11月には、昨年度に引き続き篤志家からのご寄付で飯田方面へりんご狩りの日帰りバス旅行を行うことができた。木からもぎ取って食べる甘いりんごに笑顔が広がった。

名古屋大学留学生相談室主催
外国人留学生就職活動支援コース
受講生募集

このコースは、日本企業での就職及びキャリア形成を希望する留学生の就職活動を支援するものです。既に多くの留学生の就職活動を支援した実績のある方を優先して開講いたします。

■開講日時: 2008年10月24日(金)～2008年12月12日(金) 10:00～12:00 計12回
(休: 10月25日のみ10:30～14:30) (注: 12月12日の場合は参加できません)

■開講場所: 名古屋大学留学生センター201教室(南)

■受講条件: ①日本企業に就職する意欲のある名古屋大学に在籍する留学生
②12回すべて出席できること(内容は4つのステップに分けていますが、各ステップを完了しない場合は次のステップに参加できません)

■受講料: 25,000円(定価)

■講師: 留学生キャリアアドバイザー 橋本 浩二 氏

※本コースで就職支援コーディネーター事務経験者、留学生の技術経験が豊富で、2005年より研修生として日本企業に在籍し、留学生の就職活動支援に協力した、留学生の就職活動を支援する経験があります。昨年度、同様の就職支援を受けた留学生の内定率は100%です。

■受講料: 無料

■注意事項: ①このコースは全て日本語で行われます(日本語能力が必要とします)。②コース終了後は、個別のキャリアカウンセリングを受けることができます。③11月15日(土)は、1時間ほど延長する可能性があります。④12月12日の場合は、12月11日の開講に代わります。⑤12月12日の場合は、12月11日の開講に代わります。

期数	期日	内容	講師
①	10月24日(金)	オリエンテーション	橋本
②	11月1日(土)	自己分析①	橋本
③	11月15日(土)	自己分析②	橋本
④	11月22日(土)	企業分析①	橋本
⑤	11月29日(土)	企業分析②	橋本
⑥	12月6日(土)	企業分析③	橋本
⑦	12月13日(土)	企業分析④	橋本
⑧	12月20日(土)	企業分析⑤	橋本
⑨	12月27日(土)	企業分析⑥	橋本
⑩	1月3日(土)	企業分析⑦	橋本
⑪	1月10日(土)	企業分析⑧	橋本
⑫	1月17日(土)	企業分析⑨	橋本
⑬	1月24日(土)	企業分析⑩	橋本
⑭	2月1日(土)	企業分析⑪	橋本
⑮	2月8日(土)	企業分析⑫	橋本
⑯	2月15日(土)	企業分析⑬	橋本
⑰	2月22日(土)	企業分析⑭	橋本
⑱	2月29日(土)	企業分析⑮	橋本
⑲	3月6日(土)	企業分析⑯	橋本
⑳	3月13日(土)	企業分析⑰	橋本
㉑	3月20日(土)	企業分析⑱	橋本
㉒	3月27日(土)	企業分析㉒	橋本
㉓	4月3日(土)	企業分析㉓	橋本
㉔	4月10日(土)	企業分析㉔	橋本
㉕	4月17日(土)	企業分析㉕	橋本
㉖	4月24日(土)	企業分析㉖	橋本
㉗	5月1日(土)	企業分析㉗	橋本
㉘	5月8日(土)	企業分析㉘	橋本
㉙	5月15日(土)	企業分析㉙	橋本
㉚	5月22日(土)	企業分析㉚	橋本
㉛	5月29日(土)	企業分析㉛	橋本
㉜	6月5日(土)	企業分析㉜	橋本
㉝	6月12日(土)	企業分析㉝	橋本
㉞	6月19日(土)	企業分析㉞	橋本
㉟	6月26日(土)	企業分析㉟	橋本
㊱	7月3日(土)	企業分析㊱	橋本
㊲	7月10日(土)	企業分析㊲	橋本
㊳	7月17日(土)	企業分析㊳	橋本
㊴	7月24日(土)	企業分析㊴	橋本
㊵	7月31日(土)	企業分析㊵	橋本
㊶	8月7日(土)	企業分析㊶	橋本
㊷	8月14日(土)	企業分析㊷	橋本
㊸	8月21日(土)	企業分析㊸	橋本
㊹	8月28日(土)	企業分析㊹	橋本
㊺	9月4日(土)	企業分析㊺	橋本
㊻	9月11日(土)	企業分析㊻	橋本
㊼	9月18日(土)	企業分析㊼	橋本
㊽	9月25日(土)	企業分析㊽	橋本
㊾	10月2日(土)	企業分析㊾	橋本
㊿	10月9日(土)	企業分析㊿	橋本

※本コースで就職支援コーディネーター事務経験者、留学生の技術経験が豊富で、2005年より研修生として日本企業に在籍し、留学生の就職活動を支援した、留学生の就職活動を支援する経験があります。昨年度、同様の就職支援を受けた留学生の内定率は100%です。

■申し込み・問い合わせ: 名古屋大学留学生相談室へメールをしてください
isa@ecis.nagoya-u.ac.jp

就職活動支援コース2008

就職のための日本語スタディグループ
受講生募集

主催: 名古屋大学留学生相談室

日時: 2008年10月24日(金)～12月12日(金)
毎週金曜日 16:30～18:00 計8回 (12月12日の場合は参加できません)

場所: 名古屋大学留学生センター201 教室

受講条件: ▶日本の企業に就職する意欲のある留学生
▶8回すべて出席できること

定員: 12名

受講料: 無料

注意事項: ▶このコースはすべて日本語で行います
▶毎回課題(問題)が出ます

期数	期日	内容	講師
1	10月24日(金)	オリエンテーション	橋本
2	10月31日(金)	基礎文法①	橋本
3	11月7日(金)	基礎文法②	橋本
4	11月14日(金)	基礎文法③	橋本
5	11月21日(金)	基礎文法④	橋本
6	11月28日(金)	基礎文法⑤	橋本
7	12月5日(金)	基礎文法⑥	橋本
8	12月12日(金)	基礎文法⑦	橋本

■申し込み・問い合わせ: 名古屋大学留学生相談室へメールをしてください
isa@ecis.nagoya-u.ac.jp

ビジネス日本語2008後期

外国人留学生のための就職活動がわかる本
自信をもって就職活動を!!

外国人留学生
就職活動支援コース

名古屋大学留学生相談室

冊子「自信を持って就職活動を！」



11月18日 晩秋の伊那谷道中（家族の日本語コース）

【地域・交流】

- (1) 地球家族プログラム：名古屋大学留学生相談室が担当して、地域の日本人の家庭に留学生を招くホームステイを実施している。2008年度も多くの留学生が参加し日本人家庭を体験した。担当者（鈴木香津代）からの報告を記載する。

◆ 今年度は、ホームステイを6回（うち短期研修生対象1回）実施した。参加留学生は、20カ国、延べ137組140名だった。今年度の特徴として、ホストファミリーに若干の変化が見られた。昨年度は、ほとんどのホストファミリーが一つのボランティア団体に所属しており、それ以外の団体または個人登録者で、地球家族プログラムに申し込んだホストファミリーは3家族だけだった。これに対し、今年度はそれが8家族に増えた。これは、『地球家族プログラムだより』を同封したホームステイプログラムの案内をし続けたことが形に現れたのではないと思われる。『地球家族プログラムだより』は今年度で11号を数えた。

春入学と秋入学の時期に合わせて実施するホームステイの前には、例年通りホームステイオリエンテーションを行った。また、今年度初の試みとして留学生とホストファミリーの『再会パーティー』を開いた。留学生が中心となってプログラムを考え、久しぶりに顔を合わせたホストファミリーと一緒にゲームなどを楽しんだ。

合気道教室も順調に続いており、複数の留学生が昇級試験に合格した。

- (2) 留学生のための日本語スピーチコンテストの開催：名古屋栄ライオンズクラブの結成15周年記念事業として、留学生センター主催「留学生のための日

本語スピーチコンテスト〜かたろうにつぼん〜」を1月に開催した。名古屋大学異文化交流サークルACEが主体となって約1年をかけて準備し、6名の出場者を選出、当日は多くの聴衆の前で流暢な日本語と、日本についての意見を堂々と発表し好評であった。名古屋栄ライオンズクラブとの関係が深い留学生相談室が主導的役割を果たした。（詳細は「年報 No.16事業報告」を参照のこと）最優秀賞に輝いた学生は、実行委員会のACE学生とともに名古屋栄ライオンズクラブ15周年記念式典に招待された。

- (3) 独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）の継続事業である留学生地域交流事業「地球家族セミナー in a training camp 2008」は美浜少年自然の家での日本人学生と留学生との合宿セミナーである。留学生相談室は企画段階から関わっており3年目を迎えた。今回は「防災」をキーワードとして企画し、阪神淡路大震災の経験者で留学生とともに心のケアを含めて大活躍された神戸大学の瀬口郁子先生の講演「大震災の教訓を明日へ」と、名古屋大学地震火山・防災研究センターの山岡耕春先生の講演「日本の地震火山災害」をお願いした。その後、学生たちは防災を含むテーマ別のグループに分かれ討論し、翌日グループ発表を行った。この合宿でそれぞれの学生が得たものは異なるだろうし、形として表しようにないかもしれないが、参加した学生たちが帰りに見せた晴れ晴れとした笑顔は、この二日間を楽しみ、達成感や満足感をもって終えたことを表わしていた。日常生活とちょっと異なる環境で、留学生と日本人学生という異なる文化背景を持った人々が、普段は友人とさえそれほど深い話をしないのに初対面の人々とあるテーマを深く討論したことは学生たちの心に刻まれて残るだろう。インターネットの時代とはいえ、人としての温かい心の教育にはface to faceが大切である。言い換えれば、インターネットの時代だからこそ、敢えてこのような実践的教育の機会を学生に提供する必要があるだろう。

- (4) 愛知留学生会後援会では、2008年度も愛知留学生会の交流活動を支援し、AFSA、ACE等との合同会議を重ねて様々な行事を開催した。春と秋のバス旅行では、日本人学生と留学生の交流を目的として企画し、2008年度も三菱UFJ国際財団からバス1台相

当分のご寄付をいただいてバス3台で実施した。さらに、愛知県内の大学で学ぶ留学生を対象に緊急援助金事業を行ない、5大学10名（名古屋大7名）に計1,535,000円の緊急援助金を支給した。この中には、アルバイトに急ぐあまり赤信号を渡って車に損害を与え弁償請求された学生、家族の入院等で予定していた授業料が払えない学生への貸付金も含まれている。緊急援助金申請審査では、学生の自己責任や精神的状況をも考慮している。資金源は「名古屋を明るくする会」からのご寄付であり、会の定期総会で目録の贈呈式を行った。留学生からのお礼状は「明るくする会」の会報誌「なかま」に掲載されている。

また、内閣府による「世界青年の船」の指導官として後援会の若手幹事（他大学教員）を奨励・推薦し、40日間の貴重な体験をしてもらった。後援会を後継する人材育成も大切な事業の一つである。

【NUFSA・留学生会】

(1) 名古屋大学留学生会（NUFSA）の2008年度の会長は、法学部のディリアナさん（ブルガリア）だった。春のバザーでは、名大リユース実行委員会とバザーへの品物提供について連携した。学生グループ同士の連携は大いに奨励したい。秋のバザーでは、市民から品物の受け取り態度への注意電話があった。提供していただくという感謝の気持ちが欠けていたようだ。態度はあらためなければならないが、品物を吟味したお陰で粗大ごみが出なかったことは歓迎すべきことであった。また、バザー後、レジデンスでの早朝のごみ出しを国際嚶鳴館に住む留学生が3日間自発的に行ってくれたことは是非記載しておきたい。春のウェルカムパーティーでは騒音がひどく詫び状を近隣に配布した。

NUFSAは、名古屋大学留学生後援会から活動資金を補助されている。名古屋大学留学生後援会は、当初NUFSAの活動支援のために設立されたが、現在では機関保証事業はじめ、留学生に関わる教職員の精神的経済的負担の軽減をも目的としており、留学生数は増加しているが、バザー収益で活動資金を確保できるNUFSAへの援助金は、徐々に減額され2008年度は30万円であった。2008年度は、留学生相談室担当者がNUFSA会計報告作成に携わったが、30万円の援助は妥当な金額と判断した。

(2) 愛知留学生会（AFSA）の2008年度の会長は、名古屋大学のブイ・ファイ・ホアンさん（ベトナム）だった。第44回「留学生の夕べ」に向け、開催が中止かの話し合いがあった。昨年度第43回のアンケート評価があまりよくなかったこと、大幅な赤字が出たこと、さらに2008年6月の名大祭で食中毒事件があったため、各国料理を提供する「国際料理めぐり」に消極的な意見が出たためである。しかしながら、学生からは40年以上続いているこの行事の開催希望が強く、次の点を改善して開催した。

- ① 開催時間の短縮：夜のダンスパーティーは中止し、夕方には終了する
 - ② 仕事の分担：事務局やAFSA会長に責任が集中しないよう、仕事を3チームに分け、各チームが責任をもつ。
 - ・パフォーマンスチーム…司会を含めパフォーマンスについて考える
 - ・料理チーム…衛生検査、食器購入を含め料理に関わることを考える
 - ・会場チーム…広報活動を含め、会場全体の運営に関わることを考える
 - ③ パフォーマンス、料理ブースともに出演者、出店者の説明会への出席を義務付ける
 - ④ AFSA会長、後援会会長は全体の統括、後援会事務局は会計に関わることを担当する
- 結果的に、チームのそれぞれが自分のすべきことが分かっている動きに無駄がなく大成功のうちに終えた。当日の参加者数は353名（内訳：入場者244名、パフォーマンス出演者15チーム35名、料理ブース出店者10ブース20名、主催者関係者54名）であった。

(3) 名古屋地域中国人留学生学友会の2008年度会長は、石峰さん（環境学研究科博士後期課程）だった。2008年5月12日の四川省大地震への救援募金活動への協力依頼があり、留学生相談室も学内に募金を呼びかけた。6月30日に募金活動を終えるまでに留学生相談室には計14万円の救援金が届いた。すべて中国留学生学友会会長に渡したが、学友会等が行った街頭募金や救援箱、学友会口座への振込等を合わせると200万円を超える救援金が集まったと聞いている。

また、10月渡日の中国政府国家高水準大学建設大学院学生約50名に対して、多くが借上げ宿舍の民間

アパートに入居することから生活に関するオリエンテーションを行い、中国留学生学友会のメンバーに中国語での通訳や日本での生活や研究生活について先輩として話してもらうなど協力を得た。

さらに、年度末の3月下旬、入院中の中国人留学生1名が劇症肝炎で生死が危ぶまれ、急遽家族を呼び寄せるなど緊急事態となった。京大病院で生体肝移植手術を受けとりあえず一命を取りとめたが、「鶴基金」利息の運用を含む経済支援について中国留学生学友会会長から相談があった。

【その他】

- ・名古屋大学留学生相談室長を委員長として留学生教育交流実施委員会（全学委員会）を開催しているが、2008年度は、「宿舎」の項目で述べた国費留学生の出迎えの廃止や見学旅費を含む見学旅行の見直しなど、留学生対応の根幹に関わる課題を取り上げて議論を重ねた。今後増加が予想される留学生への対応を視野に、留学生のニーズに合致した支援を、より少ない労力で最大効果をあげるため模索しているところである。
- ・「入学予定者のためのガイドブック2009-2010」及び「留学生ハンドブック2009-2010」を改訂した。インターネット情報の時代であるが、印刷物が手元にある便利さを考え、これまでどおり冊子として刊行した。留学生ハンドブックに関しては、名古屋大学

ホームページの英語版を改訂している広報課と協議しながら行った。

おわりに

毎年、1年を振りかえって、年報を書くことは大変な作業ではあるが、文書に残すことは大切なことである。日頃は目の前の事に追われがちであるが、振り返ってみると実に多種多様なことに対応したことに驚く。

名古屋大学留学生相談室は、2009年4月から相談業務体制一元化で、学生相談総合センターの留学生相談部門として統合することになった。そのため学生相談総合センターでは年度末に規定改正を行い、留学生相談部門を含む4部門としての体制を整えてくださった。しかしながら、グローバル30への申請、採択によって今後の留学生関係業務が大きく揺れ動く可能性があるため、「名古屋大学留学生相談室」は組織的にも予算的にも、そして学内の認知状況としても現状を維持したままの緩やかな統合になった。組織が統合することは、これまでの連携が強化され協力関係がより緊密になるため、大いに歓迎であり相互に参考とすべきこともあって業務のさらなる充実が期待できる。一方で、多文化を背景とする留学生の相談業務と心理系の学生相談には似て非なるものもあり、それをどのように融合していくかが今後の課題である。